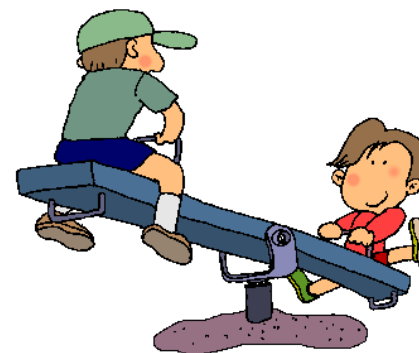


## 事例研究Ⅱ 本部開催



このspanは、事例研究にかかわる発展的内容として位置付く事例研究2です。

保育現場で出会う子ども支援や保護者支援での具体的な事例をモデルにして支援計画や支援方法について考えていきます。



保育心理士会代表  
大分こども発達支援研究所所長  
牧野桂一

# 今回の事例提供者

- 1⑥×向一博・集団活動に抵抗(DD)
- 2⑮×田口有紀・愛着形成不全(DD)
- 3⑬×中村栄梨奈・思い通りにしたがる
- 4②×阿南友香　不貞腐れて泣く
- 5①○安東侑希・言葉の遅れ・療育
- 6⑦×高野喜美　友達と遊ぶべない
- 8⑳×矢上愛・集団の活動の難しさ
- 8⑱△本村優紀・21トリソミー  
・ウエスト症候群
- 9⑨○小野　梓・発達の遅れ

- 10⑯△田島千春・発達障害・保護者支援
- 11⑰×武井夕夏・情緒障害・保護者支援
- 12⑱○堀江百香・発達の遅れ(DD)・言葉・療育
- 13③○湯山　茉奈美・発達障害・保護者支援
- 14④×牛島由美・こだわり、衝動性(DD)・吃音
- 15⑤△古川　栞・友だちとの関わり(ASD)
- 16⑪△相場　玲奈・発達障害・保護者支援
- 17⑫△大山佳厘・おちつきがない(ADHD)
- 18⑧○小田島実和・日常生活不全マイペース
- 19⑭×碓あゆみ・コミュニケーション障害
- 20⑩○小林三恵・発達障害・療育

# 今回の事例提供者

- ①○安東侑希 ・言葉の遅れ・療育
- ②×阿南友香 不貞腐れて泣く
- ③○潟山茉奈美 ・発達障害・保護者支援
- ④×牛島由美 ・こだわり、衝動性・吃音
- ⑤△古川 栞 ・友だちとの関わり (ASD)
- ⑥×向一博 ・集団活動に抵抗(DD)
- ⑦×高野喜美 友達と遊ぶべない
- ⑧○小田島実和 ・日常生活不全
- ⑨○小野 梓・発達の遅れ
- ⑩○小林三恵 ・発達障害・療育
- ⑪△相場 玲奈 ・発達障害 ・保護者支援
- ⑫△大山佳厘 ・落ち着きがない(ADHD)
- ⑬×中村栄梨奈・思い通りにしたがる
- ⑭×碓あゆみ・コミュニケーション障害
- ⑮×田口有紀・愛着形成不全(DD)
- ⑯△田島千春 ・発達障害・保護者支援
- ⑰×武井夕夏 ・情緒障害・保護者支援
- ⑱○堀江百香・発達の遅れ(DD)・言葉・療育
- ⑲△本村優紀・21トリソミー  
・ウエスト症候群
- ⑳×矢上愛・集団の活動の難しさ

# 本日の事例提供

- ・①〇安東 侑希      ・言葉の遅れ・療育
- ・③〇潟山 茉奈美      ・発達障害・保護者支援
- ・⑧〇小田 島実和      ・発達障害・日常生活不全マイペース
- ・⑨〇小野 梓      ・発達の遅れ
- ・⑩〇小林 三恵      ・発達障害・療育
- ・⑱〇堀江 百香      ・発達の遅れ(DD)・言葉・療育(ST)

# 事例1 安東 侑希

① 子どもの概要 N・A 男 4歳6ヶ月 在園年数4年 「言葉の遅れ」療育  
円城寺式・暦年齢4歳6ヶ月・言語理解:4歳・発語:2歳9ヶ月・対人関係:2歳6ヶ月  
・基本的習慣:3歳・手の運動:3歳・移動運動:2歳9ヶ月

## ② 主訴

「言葉の遅れ」・楽しく遊びたい・何で怒られているかわからない

## ③ 園での様子

＜これまでの保育方針と入園後の変化＞

- ・1歳:好奇心や自分からやりたい気持ちが育つよう色々な経験していく。
- ・2歳:遊びが発展できるよう関わる。自己主張を十分に受け止め、応答的に関わる。
- ・3歳:友達と関わる中で自分の気持ちを少しずつ伝えることができていた。

＜援助目標＞言葉でのやり取りができるようになる

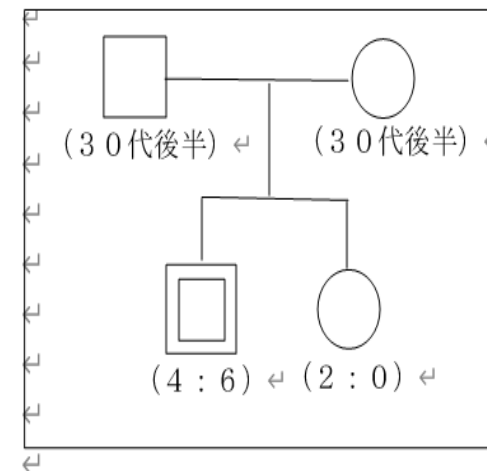
＜援助方法＞集団遊びや個別活動を通じてお友達や職員と関わる時間を作る。気持ちの伝え方については「こんな時はこう言うんだよ」と具体的に伝え、自信を持って相手に伝えることができるように支援する。

## ④ 今の課題

＜子どもの課題＞・お友達と遊びながら、集団でのルールを身につける。・ことばをたくさん覚え、相手に気持ちを伝えることができる。

＜保護者の課題＞・本児に寄り添いながらも、言葉でしっかり伝えていく。

家族関係

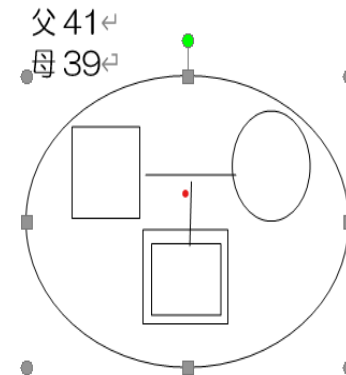


父:公務員

母:美容師

送迎:母

# 事例3 湯山 茉奈美



①子どもの概要 K・K 男 3歳11か月 在園年数 6ヶ月 発達障害(ASD)療育(ST・OT)

○発達検査 円城寺式 暦年齢3:8 移動年齢3:9 手の運動3:6 基本的習慣3:6

対人関係2:2 発語3:9 言語理解3:6

②主訴 ・ごはんの時に離席する。・指示のとき一つ一つ声掛けが必要。・姿勢保持が難しい。

・片付けが出来ない。・物の管理が苦手。・マイワールドが強い。

③ 園での様子

<これまでの保育方針と入園後の変化> 全体指示は通らないため、個別に声をかける。気になるとそちらの方へ行くことが多く、何度も声かけが必要。身支度などのルーティンが入りづらく、毎回準備の声かけが必要。

- ・ <援助目標> 目の前のことに集中することができる
- ・ <援助方法> すべきことを視覚的に伝える。指示を簡潔に短く1つずつ伝える。今からすることを尋ね確認を行う。時間に余裕がある場合は、自分でできるように見守る。棚や目的地に目印をつける。
- ・ <子どもの課題> 気が散ってしまう。注意散漫な姿がある。すぐにあきらめる姿がある。
- ・ <保護者の課題> 保護者に様子を伝える際は、エピソードを具体的に伝える。本児に伝える際は、具体的に簡潔に伝えるようにする。また、視覚的に伝える。

## 事例8 小田島 実和

### ① 子どもの概要 T 女 3歳9ヶ月 在園2年10ヶ月 「発達障害」

○発達と検査・・・デンバー式発達検査発達・・・正常

### ② 主訴 「発達障害(ASD・ADHD) 不安や不快に対して弱くパニックに陥る。他者への関心が薄く、周りの状況を気にせず過ごす。興味が次々移り、歩き回る。好きな遊びは集中し、中断を嫌がる。偏食がある。嫌いな事や苦手な事があると大声で泣き叫んで癇癪を起こすおこす。音に敏感である。

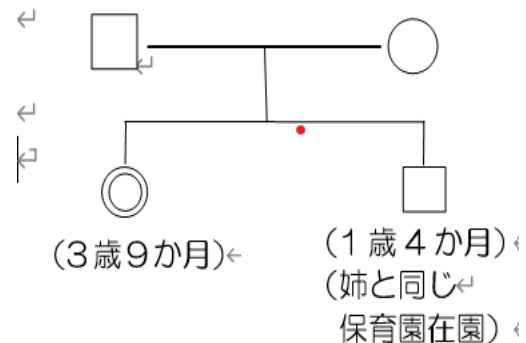
### ③ 園での様子 ・課題： ・不安や不快に対して弱くパニックに陥る。・マイペースで、集団から離れる。・活動を切り替えたり気持ちを切り替えたり事ができない。・偏食が強く、十分な量食べる事ができない。トイレを嫌がり、排泄訓練ができない。

・対応：・安心して遊べる環境を設定する。集団から離れても無理に戻さず、安全に留意し見守る。人との関わられるように友達と関わって遊ぶ。・活動を見通せる様に砂時計を使って、次の活動へ期待がもてる言葉がけをする。・食の楽しさ、おいしさを感じながら自分で食べることができる様に、野菜を育て収穫したり、食育視聴覚教材を使った指導を行ったりする。盛り付けを工夫する。励ましや歌に合わせて介助されると喜んで食べることもある。・興味に寄り添い、共感的に言葉がけをもつ

・ 変化：・嫌な事や不快に感じた事を簡単な言葉で話し、癇癪が少なくなった。

### ④ 今の課題：・自分でスプーンをもって様々な食べ物をおいしく楽しく食べる。・不快や不安な気持ちを自分で切り替える。

(日勤、営業職) (日勤、営業職)  
(育児協力的、 (まじめ、心配性)←  
帰りが遅い) (平日ほぼ1人育児)←  
← (40代前半) ← (30代前半)←



※両親共に子育てに一生懸命。  
勤務時間の都合で、平日は母親中心の育児。←  
※父方、母方祖父母は、遠方在住の為、育児協力できない。←

## 事例9 小野 梓

①子どもの概要 K.S 男 3歳7か月 在園年数 6か月 **発達の遅れ**

3,6か月健診では全てにおいて発達の遅れがあり、**全体的に2,5歳の発達と診断。**

**遠城寺では2歳5か月。支援指数72**

②主訴 **発達の遅れ**

- ・ 健診では部屋から飛び出したり、母を蹴ったり叩いたりする。母親は、本児にどのようにかかわればいいのか分からず、困っている。

③園での様子

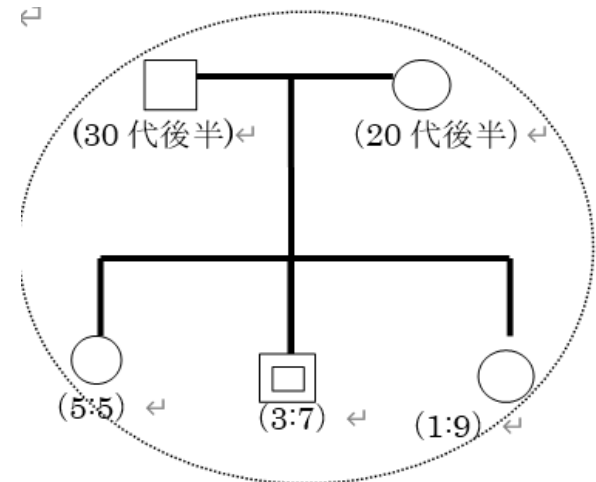
＜これまでの保育方針と入園後の変化＞特定の保育者が朝の受け入れや遊びで側にいるようにし、その中で興味関心のあるものを見つけその中で、特定の保育者が朝玄関で迎え入れると、今までは泣いて暴れていたのが、「先生、おはよう」というようになり、母親ともスムーズに離れるようになった。また、**室内に本児の好きなものを集めた個室を作ると、その部屋には入るようになる。**

＜援助目標＞・午前中、本児が安定して遊べるようにする。

＜援助方法＞・「ママがいい」と思う暇もないような保育の展開をクラス全体で行う

・ ④ 今の課題

- ・ 安心できる場所を作ること。
- ・ どのように接してあげれば安心して生活を送ることができるか。
- ・ 「ママがいい」となった際の落ち着かせ方。



父親の職業：看護師で夜勤あり。送迎も都合がつけば父もする。

母親の職業：入園当初は、1号認定で入るが6月頃より家庭の事情の為週3の2~4時間パートで働くようになる。

母親の実家は県外(福岡)で父親の実家は本児のすぐ近くにあるようだが、母は義両親に頼りたくない。パートに出ている間だけ、下の子を見てもらっている。

父親が、結婚当初から、母親への暴言があり、本児の目の前で母が父に罵られている所を見ていたこともある。

# 事例10 小林三恵

① 子どもの概要 S.K 男 4歳1か月 在園年数 5か月

＜検査等＞ 1歳半健診：言語障害(SD) 3歳2か月の時1年前後の遅れ。

②主訴 発達障害(ADHD・ASD)

感覚が過敏であり大きい音に敏感である。・衝動性があり部屋を飛び出す。他児に手が出る。・偏食がある。・場面の切り替えが苦手。

③園での様子

・＜援助目標＞ ＜援助方法＞

・大人に見守られながら身の回りのことを自分でしようとする。(3歳児1期)

・大人の援助のもと自分の気持ちと葛藤しながら折り合いをつけようとする。(2歳7か月2歳11か月)

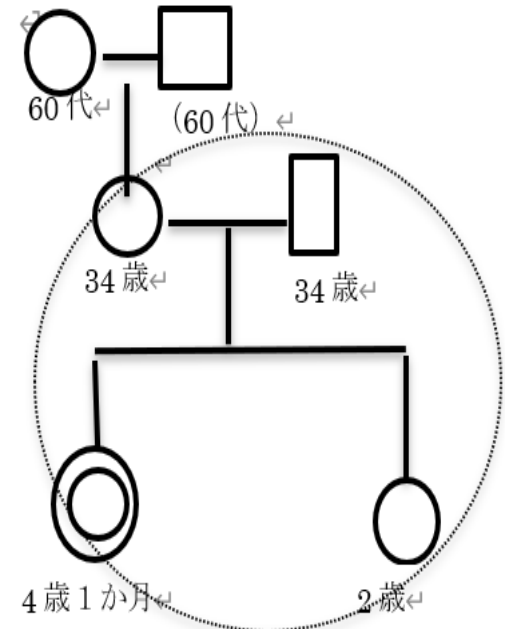
・やりたい行動がある時には、どこに何のために行きたいのかを保育者に伝えられるように、具体的に答えられるように声掛けをする。

・「走りたい」という要求があった時は、保育者が付き添い、廊下に行き遊びたい欲求を満たせるように関わっている

・他児とのやりとりでは、保育者が仲介し、「貸して」「使いたかったね」等、本児の気持ちを代弁し、繰り返し伝えている。本児と他児が怪我のないよう、常に本児の姿は視界に入れ、すぐに対応できるようにしている。

④ 今の課題

・行動する前に言葉で伝えることがまだ難しい。簡単な言葉でも伝えられるように関わる。



- ・母は看護師、父は教員←
- ・祖父母は土曜保育でお迎えに来る。←

## 事例18 堀江 百香

① 子どもの概要S女 4歳2か月 在園 3年 言語の遅れ 年少児から療育へ

<検査等> 発達年齢 4:8 ※全体的遅れなし・ギフテッド?

②主訴 ・場面や状況に応じて行動することや、悲言語の読みとりが難しく、人間関係でトラブルに発展する・注意力の散漫、物事を順序立てて行動することの難しさが。・保護者支援

③園での様子

<援助目標>

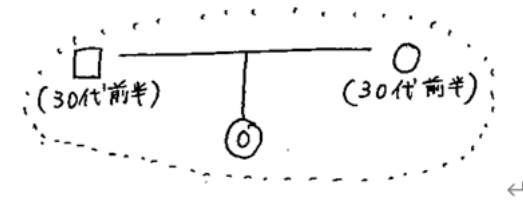
- ・本児なりのペースで、最後まで荷物の整理や片付けを行う。
- ・周囲の状況や場面に合わせた行動に意識を向けようとする。

<援助方法>

- ・端的な言葉でつたえていくと共に、スモールステップでできた際に沢山ほめ次のやりがいや自信に繋げる。
- ・周囲の視野が狭くなっている際は、状況、周りの行動を伝え、どうすれば良いか問いを掛けていく。

④ 今の課題

その時の気分ですぐに取り組む時や、ボーっとして中々取り組めない時があるが、本児のペースで最後まで行えている。



・父：会社勤務。母の育児、仕事家事等の心理的負担から週末は本児を連れて実家にお泊りしている。

・母：会社勤務。パート。  
「育児きつい」「毎日がきつい」と多々言われ、情緒の波も感じられる。父への不満もあるようで、家庭内別居で「必要以外関わらない」との話を言われていた。

# 付録：今回の事例に関する資料

- 発達障害について
- 知的障害について
- 自閉スペクトラム症※自閉スペクトラム症のチェックリスト
- 配慮の必要の子どもの支援の方法
- 注意欠陥多動性障害
- 知的障害・自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害のチェックリスト

# 発達障害について

## 発達障害児とは

○知的な発達に遅れはないが  
学習や行動に障害が見られる子ども

## 中枢神経系の機能障害

### 学習障害

基本的には、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態をさすものである。

### 注意欠如多動症

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

### 自閉スペクトラム症

3歳位までに現れ、  
①他人との社会的関係の形成の困難さ  
②言葉の発達の遅れ  
③興味や関心が狭く、特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である。

# 知的障害

知的障害は、最新の「精神疾患の診断・統計マニュアル 第5版(DSM-5)」では、「知的能力障害(知的発達症)」とも表記されています。知的機能や適応機能に基づいて判断され、重症度により軽度、中等度、重度、最重度に分類されます。様々な中枢神経系疾患が原因となるため、正しい診断を受けて、早期に治療・療育・教育を行う必要があります。

知的障害というのは、知的発達面に遅れがあって、通常の生活を行なう上での適応行動に障害がある状態をいうようにいわれています。知的障害のという障害については、その特性をとらえるために中枢神経系の器質的障害の面と知的機能の障害の面(知能指数が70～75またはそれ以下)、社会生活におけるハンディキャップの面からみることというのが一般的です。

器質的障害の状態については、医師の医学的診断によって明らかにされます。

知的機能面については、心理学的・教育的診断によって明らかにされます。具体的には、知能や学力の遅れの有無などで、学齢期に入ると大きな問題となってきます。また、知的機能面の遅れは、心理的、社会的環境要因などの非器質的要因からも生じることがあります。社会生活におけるハンディキャップの面については、社会生活をする上での困難性として捉えられ、幼児期や学齢期より、学校卒業後の社会生活において問題となることが多くなります。この社会生活におけるハンディキャップは、周囲の教育的条件や社会的条件によって大きく左右されます。

知的障害について以前は「精神薄弱」という用語が長い間使用されていましたが、「精神薄弱」という言葉が障害の実体を表す言葉として誤解を与え好ましくない障害観を表すというような理由から、1999年4月より「知的障害」というように改められました。

## 知的障害

### アメリカ精神医学会 DSM-IV 「精神疾患の分類と診断の手引き」

Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (診断統計マニュアル第4版)

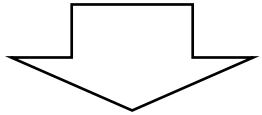
#### 精神遅滞 (Mental Retardation)

軽度IQ50-55～70

重度IQ20-25～35-40

中等度IQ35-40～50-55

最重度IQ20-25以下



「DSN-5では、知的障害はおおむねIQ70未満の基準自体は変わらないが、重度評価の指標として、生活適応能力が重視され、単に知能指数での分類ではなくなった。それらはおもに学力領域、おもに社会性領域、おもに生活自立能力領域に関して、それぞれ具体的な状況から重症度の判定を行う形に変化する」(臨床家のためのDSM-5虎の巻: 杉山登志郎他)

## 療育手帳

### 〇県K県に見る療育手帳に関する規則

知的障害者(知的障害児を含む)に対する援助、相談その他の措置の円滑な実施を図り、もって知的障害者の福祉の増進に資することを目的とする。

知的障害の程度	内容
最重度(A1)	一 基本的生活習慣が未形成のため、常時すべての面で介助が必要 二 多動、自他傷、拒食等の行動が顕著であるため常時の付添い監護が必要 三 身体的健康に嚴重な看護が必要 四 知能指数がおおむね二十以下
重度(A2)	一 基本的生活習慣が未形成のため、常時多くの面で介助が必要二多動、自閉等の行動があり、常時の監護が必要 三 身体的健康に常時の注意及び看護が必要 四 知能指数がおおむね三十五以下 五 知能指数が五十以下で、身体障害者福祉法(昭和二十四年法律第 二百八十三号)に基づく障害の等級が三級以上に該当
中度(B1)	一 基本的生活習慣の形成が不十分なため、一部介助が必要 二 行動面での問題に対する注意又は指導が必要 三 発作又は周期的精神変調がある等のため、一時的な看護が必要 四 知能指数がおおむね五十以下
その他(B2)	最重度、重度及び中度以外の知的障害者であって、知能指数がおおむね七十以下

①発達チェックシートによるチェック

発達の全体像をとらえるためのチェックリスト

部分拡大図

発達の全体像をとらえるためのチェックリスト												
年齢	クラス			発達の全体像をとらえるためのチェックリスト			発達の全体像をとらえるためのチェックリスト			発達の全体像をとらえるためのチェックリスト		
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒				

平成25年度 保育課程 チェックシート (平成25年3月改訂)

	養護			教育				
	生命の保持	情緒の安定	健康(運動)	人間関係	環境	言葉(話す)	言葉(理解)	表現
おおむね 6ヶ月未満	・ミルクを飲むと喜ぶ ・食べ物を興味を持つ ・徐々に運動意欲を高める ・1日2、3回のリズムでぐっすり寝る ・汚れた部分をきれいにしてもらうと喜ぶ	・不快安楽をはっきり示す 【速達年次 2ヶ月】 ・親しい大人に抱かれたり身をゆだねる 【速達年次 8ヶ月】 ・好きな人を見ることと喜ぶ	・うつ伏せで頭をあげる 【速達年次 2ヶ月】 ・両足、腹這いなどの運動をする 【速達年次 5ヶ月】 ・手を伸ばしたり握ったり放したりする 【速達年次 8ヶ月】	・大人の顔を見つめてみる 【速達年次 2ヶ月】 ・身近な人の顔や声がかかる 【速達年次 5ヶ月】 ・顔に映った自分の顔に反応する 【速達年次 8ヶ月】	・手を口に持っていく 【速達年次 2ヶ月】 ・目の前の物をつかもうとする ・話し声のする方を見る	・保育者に話しかけられると「アー」 1コーに声が出る ・あやされるのを声を出して笑う ・唇を開いて「ぶーぶー」と音を出せる	・母の声と他の人の声を聞き分ける ・道・壁などが来るとくれるとわかる ・人の声で静かになる ・人の声に反応する	・音のする方に向く ・追従をする ・玩具を握って音を出す ・あやされる手、足を動かして喜ぶ
おおむね 6ヶ月から 1歳未満	・手づかみで物を食べる 【速達年次 8ヶ月】 ・コップでも水を飲む 【速達年次 7ヶ月】 ・離乳食が次第に完了し初期の幼児食 を食べ始める ・一皿菜、二皿菜など一定のリズムで寝る	・見慣れた人を真似て「ニギニギ」や 「ハイハイ」をする 【速達年次 10ヶ月】 ・人見知りや羞恥心になる 【速達年次 11ヶ月】 ・安心して探索活動をする	・玩具をもちかえる【速達年次 7ヶ月】 ・ビンの蓋をあけたらためたりする 【速達年次 10ヶ月】 ・はいはい、お座り、両ひざを、立つ、 多などの移動活動をする 【速達年次 10ヶ月～1歳3ヵ月】 ・手や指先を使って物をつかむ ・積み木を打ち合わせる	・保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ ・友達と一緒にいたり、同じことをして 遊んだりすることを楽しむ ・親しい人を退けたとき口をきくと 探したりする	・きれいな色彩の物、身近な物の数 本を見る ・自分の名前を呼ばれると振り向い たり、手をあやしたりする ・好きな遊具や玩具で、一人遊びが 出来る	・喃語や「ママ」「マンマ」などの一語 が出る ・音声をまねようとする 【速達年次 11ヶ月】 ・指差しの仕方が現れ始める 【速達年次 10ヶ月】 ・「ハイハイ」「さようなら」のこばに 反応する 【速達年次 11ヶ月】	・歌や音楽に合わせて体をゆらす ・つかむ、たたく、ひっぱるなど指や 手で遊ぶ ・簡単な手遊びや「ハイハイ」をまねる 【速達年次 11ヶ月】	
1歳 【速達年次式】	・改して食べようとする	・一緒に遊んでと要求し、相手になると 喜ぶ	・座った位置から立ちあがる	・父や母の顔を見て遊ぶ	・物をひっぱたりす ・指をまねる	・言葉で1～2語、正しくまねる	・要求を理解する	・なくり音を出す
おおむね 1歳から 2歳未満	・二杯しながらスプーンやフォーク を使って食べる ・保育者の顔で安心して眠ったり休 息をとったりする ・オムツに漏りタイミングが合うと排泄す ・身の回りのことに興味を示し、自分で やってみようとする	・泣いたり喃語を発したりして保育士 に甘える ・親しみある保育者に自分から寄って いく ・見慣れない保育者や見知らぬ場所 には近づかない	・歩く、走るなどの移動活動をする 【速達年次 1歳2ヶ月～1歳8ヶ月】 ・コップからコップへ水をうつす 【速達年次 1歳8ヶ月】 ・一人で一段ごと足をとるようになる 【速達年次 1歳9ヶ月】	・身近な人の仕度や行動を模倣する 【速達年次 1歳8ヶ月】 ・自分より小さい子がかかる ・気の合う友だちが出てくる	・近くで遊ぶ友達や大人に気付き、 近づく ・戸外遊びをする ・一人遊びをする ・物の出し入れをする(積み返す) ・遊具や玩具の使い方、遊び方がわか る	・2語を言う 【速達年次 1歳4ヶ月】 ・絵本を見て一つのものの名前を言う 【速達年次 1歳8ヶ月】 ・絵本を見て二つのものの名前を言う 【速達年次 1歳9ヶ月】	・音楽に合わせて体を動かしたり、 簡単な手遊びをしたりする ・つかむ、たたく、ひっぱるなど、 手や指を使って遊ぶ ・手元にあるものを他のものに見立て て遊ぶ	
おおむね2歳	・一日の中で食事や睡眠などのリズム が整ってきて運動時に過ごす ・身の回りのことを自分でやろうとする ・濡れた箇所をタオルで拭く ・怖いものに対して、逃げる、取り除 くとうするなどの対応が出来る	・安心して遊ぶ保育者の顔で好きな遊び ができる ・自分の目の表現で保育士に甘えたり 要求を示したりする ・親しい人のある人の顔がかけにより気分 転換が出来る	・走る、押す、ひっぱるなど全身を使った 遊びができる ・ボールを前にける【速達年次 2歳0ヶ月】 ・両足でびくびく歩行 【速達年次 2歳3ヶ月】 ・競争などに両手、両足をのり下がる 【速達年次 2歳3ヶ月】	・友達の名前がわかり呼んだりできる ・友達のお世話をしたがる ・自分で出来ることは自分でしようとする	・自分の物と他人の物の区別がつく 【S～M社会生活能力検査2歳0ヶ月～ 3歳0ヶ月】 ・保育者と一緒に玩具の片づけをする ・音でかきまわることができる 【発達チェック 2歳2ヶ月】	・二語文を話す 【速達年次 2歳0ヶ月】 ・絵本を見ながら繰り返し読める言葉 を模倣して言う ・自分の名前を言う 【速達年次 2歳8ヶ月】	・「もぐもぐ」「もぐもぐ」しあがわかる 【速達年次 2歳0ヶ月】 ・大をいせいがわかる 【速達年次 2歳8ヶ月】 ・長い、短いかわかる 【速達年次 2歳9ヶ月】	
おおむね3歳	・体の異変を訴えることができる ・一人、二杯やスプーンでの飲用ができる 【S～M社会生活能力検査2歳0ヶ月～ 3歳0ヶ月】 ・一人でトイレに行き、排泄をする 【速達年次 3歳0ヶ月】 ・言葉がかけにより手紙をしたたり休息を とったりする ・着て遊ぶ【速達年次 3歳0ヶ月】	・自分の要求を訴える ・周囲の顔がかけ、動きかけにより気分 転換が出来る ・友だちとの関わりが深まる	・びくびく思える 【速達年次 3歳4ヶ月】 ・ボールを投げる 【速達年次 3歳4ヶ月】 ・競争や両足で走ろうとする前に歩 【速達年次 3歳8ヶ月】	・「こうしていい？」と許可を求める 【速達年次 3歳4ヶ月】 ・ごっこ遊びを楽しむ 【速達年次 3歳8ヶ月】 ・遊具、用具を買ったり、開閉に使ったり する 【速達年次 3歳9ヶ月】	・自分の物と他人の物の区別が はっきりつく ・物を大切に扱おうとする ・天候の違いに気付く ・簡単な決まりを守り ・屋外の決まられた場所では遊ぶ 【発達チェック 3歳0ヶ月】	・挨拶や返事など日常生活での言葉 のやりとりが不自由なくできる ・「なぜ?」「どうして?」などの質問を返 す ・簡単な返答ができる	・動物や乗り物などの動きを模倣する 【速達年次 3歳0ヶ月】 ・自分の好きなものになりきって遊ぶ (ヒーロー、家族等) ・砂を使って型抜きをしたり、お山を つくったりして遊ぶ	
おおむね4歳	・自分から体罰の悪化に気づき、体の 異変を訴える ・苦手なもので遊ぶ ・危険な生活の中での危険な事柄に 気づく ・衣服整頓を自分でする ・鼻をかんだり眼や手を洗ったりし、 体を清潔にする	・他人を気遣うことができる ・はづかしがる ・不快なことがあってもいしは我慢できる	・片足でけんけんをしあそぶ 【速達年次 4歳0ヶ月】 ・ブランコに立ちのりして遊ぶ 【速達年次 4歳4ヶ月】 ・タオルや雑巾をしぼることにできる 【発達チェック 4歳10ヶ月】	・保育者の言うことや友達の意見を聞く ・自分のしたいこと、してほしいことを はっきり言う ・ジャンケンや勝ち負けがわかる 【S～M社会生活能力検査3歳0ヶ月～ 4歳11ヶ月】 ・決まりの大切さがある	・色々な用具や器具に興味を持ち、 大切に扱う ・身近な大人の仕度や生活に興味を 示し、遊びに参入する ・季節や天候による遊びの違いを知る ・指を見てきちんと道路を渡るこが できる	・身の回りの出来事や自分の思いを 言葉に出して言う ・文字、数字に興味を持ち、読む ・日常生活に必要な挨拶をする	・見慣れたものの用途を言うことができる 【発達チェック 4歳0ヶ月】 ・数の概念が分かる(5まで) 【速達年次 4歳4ヶ月】 ・左右がわかる 【速達年次 4歳9ヶ月】	
おおむね5歳	・体罰が思いの通じ方がわかる ・生活の中での危険な事柄や場所を 言う ・基本的な生活習慣が身につく	・善悪の判断がつく ・感情のコントロールができる ・自分の気持ちや考えをきちんと表す	・ジャンケンゲームにできる 【速達年次 5歳0ヶ月】 ・競争で前回りができる ・空気を流すことができる ・ケンケンパができる	・ジャンケンゲームにできる 【速達年次 5歳0ヶ月】 ・自分たちで決まり事を作って遊ぶ ・空気を流すことができる ・ケンケンパができる	・身近な物を整理して大切に使う ・身近な植物の世話をする ・公共の場での決まりや、マナーがわか る ・積極的にかかわる ・様々な運動器具をつかいて遊ぶ	・身の回りの出来事や自分の思いを 保育者や友達にわかりやすく伝える ・遊びかたや慣れがけに知り通じて 知覚する ・しりとりができる【速達年次 5歳0ヶ月】 ・自分の名前を読み書きする 【速達年次 5歳9ヶ月】	・昨日、今日、明日の流れがわかる ・苗字と名前の区別がつく ・友達と比べると、どちらが勝ったか 数えて決める【速達年次 5歳9ヶ月】 ・生活に必要な簡単な文字や記号が 分かる 【速達年次 5歳9ヶ月】	
おおむね6歳	・一人で遊ぶことができる 【速達年次 6歳0ヶ月】 ・疲れたら自分で安心できる場所へ行 き、休息をとる ・事故防止に関する知識を持ち、危険な 事に対しての簡単な対応がわかる ・体と食物の関係が分かり、何でも食 べようとする ・清潔と病気の予防の関係が分かり、 身の回りを清潔にする ・自分や友達の体の異変について、 保育士に知らせる ・身の回りのことは自分でする。	・予想、見通しを立てて自信を持って 行動する ・友達と生活に耳を傾け、共感した り意見を言うことができる ・人前で声を出して道くことを我慢する ・積極的に戸外で様々な運動をする ・様々な運動器具や遊具を使い、友達と 一緒に工夫して、遊びを発展させる ・自分の目標に向かって努力し、積極 的に様々な運動をする	・後ろ歩きができる ・ボールを上手にうつける ・速度を速く走る ・積極的に戸外で様々な運動をする ・様々な運動器具や遊具を使い、友達と 一緒に工夫して、遊びを発展させる ・自分の目標に向かって努力し、積極 的に様々な運動をする	・年下の子どもと、一緒に楽しむ ・遊んで年下の子のお世話を適切にす る【速達年次 6歳0ヶ月】 ・友達数人で1人遊びができる 【速達年次 6歳0ヶ月】 ・小さい子や弱い子の面倒を見る 【速達年次 6歳0ヶ月】 ・友達との生活や遊びの中で、決まりが あることの大切さを感じ ・友達との関わりの中で善悪の判断を して行動する ・遊んで自分の希望や意見を主張したり、 相手の意見を受け入れる ・共同の遊具や用具を協力して使う	・色々な行事を楽しむ ・安全に遊ぶことができる ・花田を作る工程が分かり、一人で 作ることもできる ・地図や地図帳を見ることに興味を持 つ【速達年次 6歳0ヶ月】 ・			

# 自閉スペクトラム症

A utism S pectrum D isorder ( A S D )

自閉症と連続した自閉圏の障害でこれまでは、  
広汎性発達障害というように言われていた。

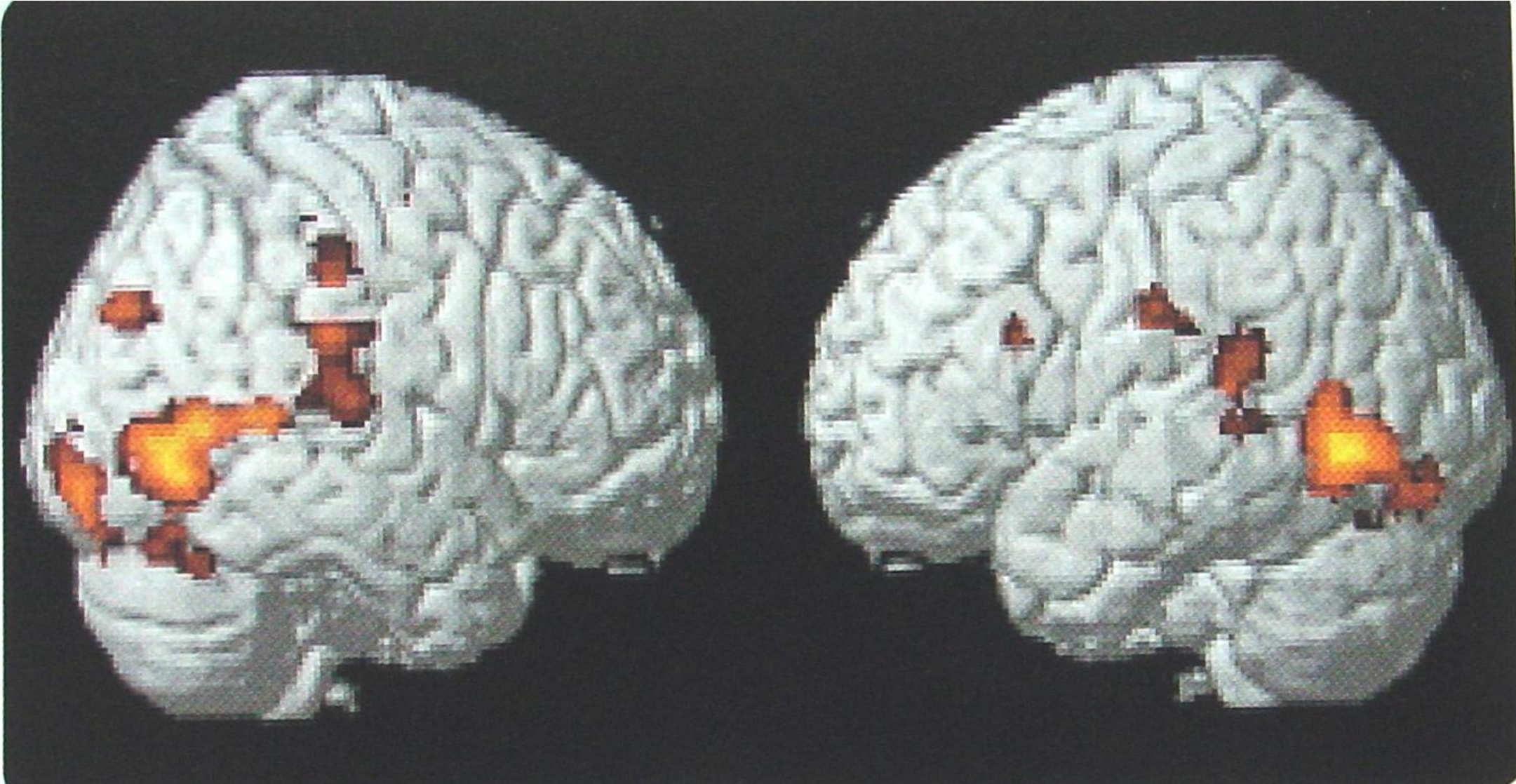
育て方の問題ではなく、中枢神経系  
(脳)の機能障害といわれている。

## 3つの特徴

- 社会性・対人関係の障害 (場面に応じた適切な行動がとれない)
- コミュニケーションの障害
- 想像性あるいはこだわりの障害

五感 (視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)  
にさまざまな感覚にかたよりがある

# 自閉症の脳のfMRI



## 自閉スペクトラム症（ASD）の子どもの特性及び具体例①

### ① 社会性の特性

- \* 視線が合わない。指さししない \* 呼んでも振り向かない
- \* 回りの人に関心を示さずマイペースで友達関係をうまく作ることができない
- \* ジェスチャー等で意思を伝えようとしない \* 迷い子になりやすい
- \* 人に合わせることがにがてで協力して遊ぶことができない
- \* 同年齢の子どもと波長が合わずごっこ遊びや見立て遊びができない
- \* 回りの人が困るようなことでも平気でする など

### ② コミュニケーションの特性

- \* ことばが遅い。聞かれたことに答えずオウム返しで話す
- \* 言いたいことを一方的に話し、会話にならない
- \* 他の人に自分の思いや考えをうまく伝えることができない
- \* 話すほどには理解おらず、話し方が回りくどくて細かいところにこだわる
- \* 話が飛びやすいく抑揚を付けて話すことができない など

### ③ 想像性あるいはこだわりの特性

- \* 同じ遊びを繰り返し、反復的な行動をよくする \* 流水・回転するものが好き
- \* 特定の物や習慣、方法、手順にこだわる。行動パターンが決まっている
- \* 人が興味を持たないことに異常な関心を示す \* 細部へのこだわり
- \* 自分だけの空想の世界で遊ぶ
- \* 車や電車、時刻表など特定の分野のことにとても詳しい
- \* 環境の変化や予定の変更などにうまく対応できない

### ④からだの感覚の特性（感覚過敏と鈍麻）

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）にさまざまな感覚のかたよりがある

- \* 手をひらひらさせるなどの常動行動がある
- \* 極端の偏食で白いご飯やスナック菓子しか食べず好き嫌いが激しい
- \* 光をまぶしがる。キラキラしたものを好む
- \* 音、匂い、色、味、蝕に対して感覚が通常よりも鋭い、または鈍い
- \* 動作がぎこちなく、不器用である
- \* 長く爪先立ちをするなど独特な姿勢をする
- \* 得意なことと不得意なことの差が大きい
- \* 独特な上目遣いをする
- \* 飛び跳ねながらくるくる回る
- \* 特定の服の生地が苦手など
- \* パニックを起こす

# 自閉スペクトラム症の チェックシート

例文のどれか一つでも「ほぼ毎日」「一日数回」があれば左の項目はある→○  
こちらは幾つ以上という基準はありません。

対人面とこだわりの状況のチェックシート

○年齢・性別 [ 歳 月 ][男・女]

○対象児氏名 [ ]

○記入者氏名・対象児との関係 [ ]

○記入年月日 [ ]

	不適応の状態	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
人への反応やかかわりの乏しさ	目と目で合図をする、身振りをを使うなど非言語的な行動が少ない					
	友だちと仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友だちと関係をうまく築けない					
	友だちのそばにはいるが、一人で遊んでいる					
	仲のよい友だちがいない					
	ゲームをする時仲間と協力することに考えが及ばない					
	いろいろなことを話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない					
	共感性が乏しい					
	周りの人が困惑するようなことも平気でしてしまう					
言葉の発達遅れ	話し言葉の遅れがあり、身振りで補おうとしない					
	言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る					
	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある					
	「ちなみに」「いわゆる」「ようするに」「つまり」などの言葉を繰り返し使う					
	その年齢に相応した変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性のあるものまね遊びができない					
	大人びている、ませている					
特定の興味や関心があること	みんなから「○○名人」(オタク的)と思われる例: 国語名人					
	他の子どもが興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」をもっている					
	空想の世界(ファンタジー)に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合がある					
	特定の分野の知識を蓄えて得意がる					
	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある					
	特定の物にこだわりがある					
	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある					
	自分なりの独特な日課や手順があり変更を嫌がる					
その他の特徴	意図的でなく、頭や体を動かすことがある例: 手や指をばたばたさせる					
	独特な声で話すことがある					
	独特な目つきをすることがある					
	独特な表情をしていることがある					
	独特な姿勢をしていることがある					
	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある					
全般的なこと	社会生活や園生活に不適応が認められる					

## 自閉スペクトラム症の子どもへのかかわり方のポイント①

### 落ち着ける環境の用意

見えるものや聞こえるものなど、外界からの刺激すべてに反応しがち。家具や飾り物などをなるべく取り除いた、静かな落ちついたスペースを確保する。

### ことばかけは統一して簡潔に

話しかけるときは、ゆっくりと短いことばで、いろいろな表現を使わないようにする。同じ指示を何度も行う場合は、その指示の出し方を統一する。

### 活動の流れを視覚的に伝える

予定している活動を、絵や写真を使って一覧表にするなど、目で見てわかりやすく伝えることで、見通しがもて、情緒が安定する。

### 活動の区切りを明確に

それぞれの活動の始まりと終わりを明確にする。特に、「いつ終わりになるか」を、わかりやすく伝える。視覚的にイメージできる伝え方をする。

### 楽しく取り組める工夫を

好きなことや興味のあることを課題のテーマにしたり、スモールステップでわかりやすく進めるなど、取り組みやすくする。満足感を実感できるような課題の設定を行う。

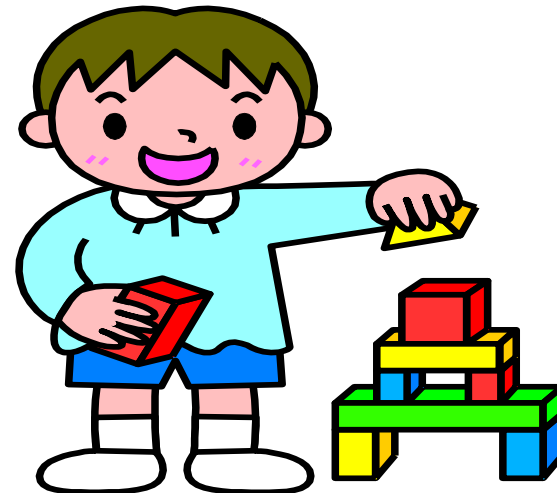
## 自閉スペクトラム症の子どもへのかかわり方のポイント②

### パニックには冷静に対応

パニックに振り回されないようにする。  
刺激の少ない静かな部屋で落ち着くまで待つ。  
「叱らないけど譲らない」という一貫した姿勢が大切。

### 興味の幅を広げる手助けを

その子が好きな遊びから、他の遊びにも誘ってみる。  
いつもしている遊びを減らすのではなく、他のことにも  
楽しみが広がるような支援をする。



# 注意欠如多動症（ADHD）とは

注意

欠如

多動性

障害

**A**ttention **D**eficit **H**yperactivity **D**isorder

ADHDとは、年齢あるいは発達に釣り合いな**注意力、及び／又は衝動性、多動性**を特徴とする**行動の障害**で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）



12歳以前に現れ、その状態が継続し、**中枢神経系の要因による機能不全**がある。

# シナプスの 情報伝達

活動電位の流れ  
シナプス小胞の流れ

神経伝達物質の放出異常や  
レセプターの異常で病気が発生  
する(ADHD, 鬱病、重症筋無力  
症)

化学伝達物質

シナプス小胞

約100の神経伝達物質  
が知られている  
アセチルコリン、ドーパミン、  
ノルアドレナリンなど

ドーパミン  
トランスポータ

細胞間隔

抑制

セロトニン

次の神経細胞

受容体(レセプター)

薬の利用 ・ コンサータ ・ ストラテラ

# 注意欠如多動症（ADHD）の例

## 不注意型

- ・ 気が散りやすく、話が聞けない
- ・ 注意を払えない。集中できない
- ・ いろいろな刺激に反応しやすい
- ・ 事故に遭いやすく怪我が多い
- ・ 物をよく無くして忘れ物が多い
- ・ 片付けができない
- ・ よく物忘れをする

これって結構誰にでも  
当てはまるんじゃないの？  
自分もADHDなの？

...と思うのは、

**大間違い**

これらが常にかかるのです

自己コントロールできない

## 多動・衝動型

- ・ 思い通りにならないと急に興奮して怒り出す
- ・ パニックになる
- ・ ルールや順番が守れない
- ・ 自分中心で面倒なことは嫌う
- ・ 危険なことが好きで危ないことをする
- ・ 興味のないことはしないで立ち歩く
- ・ 相手の立場を考えずに一方的にしゃべりる
- ・ 相手を傷つけるようなことを言うってしまう等

# 注意欠如多動症の子どもチェックリスト

不適応の状態を把握するチェックシート

No.1

○対象児氏名 \_\_\_\_\_ ○年齢・性別 [ 歳 月 ] [ 男・女 ]

○記入者氏名・対象児との関係 \_\_\_\_\_

○記入年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## 1. 不注意

不適応の状態	不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1) 注意を払えない	・集団や個別の活動で、細かく注意を払えない ・何度注意しても同じミスを繰り返す ・注意すべきところで丁寧に行わない					
(2) 集中力を持続できない	・好きなことには極端に没頭するが、興味の無いことには注意集中時間がごく短い ・根気がなく努力している姿が見られない					
(3) 話を聞いていない	・話しかけても聞いていない ・集団の中で話を正確に聞けない ・違うことをして話を聞いていない					
(4) 指示に従えない	・指示は理解できるのに、従えない ・言われたとおりのことをしない ・掃除などをさぼり注意される					
(5) 計画性がない	・計画を立てるのが苦手 ・無理な計画を立てて、やり遂げられない ・時間配分ができない					
(6) 課題を避ける	・工作等の課題を避ける、嫌う ・難しい課題はすぐにあきらめてしない ・給食の後片付けなどの決まった課題を嫌がる					
(7) ものをなくす	・宿題・鉛筆・本・傘などをなくす ・何をどこに置いたかわからなくなる ・探している物が側にあっても目に入らない					
(8) 気が散る	・ちょっとした物音でもすぐに気が散る ・話し声や騒音等に過剰に敏感である ・「暑い・寒い・かゆい」等とすぐに訴える					
(9) 物忘れをする	・歯磨きや手洗い等の毎日め日課でも忘れる ・園であったことや直前のことを忘れる ・翌日の準備物を覚えていない					

不適応の状態を把握するチェックシート

No.2

## 2. 多動性(過活動)

不適応の状態	不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1) そわそわしている	・座っていて手足を動かす。身体をクネクネさせる ・髪いじり・爪かみ・指しゃぶり等がある					
(2) 離席する	・一斉保育や食事中にすぐに席を離れる ・教室から飛び出してどこかに行ってしまう					
(3) 興奮する	・異様にはしゃぐことが多い ・集会の場で走り回る、高いところによじ登ったり、飛び降りたりする					
(4) 騒がしい	・遊んでいても騒がしく周りに迷惑をかける ・静かに読書等ができない ・見知らぬ人にも声をかけて不快感を与える					
(5) 休みなく動き回る	・じっとしていない ・予想のつかないことをしてかす ・目的の場所にいないことが多い					
(6) 必要以上のお喋り	・遠慮すべきところでも、自分のペースで不適切なほどに過剰に喋る。 ・教師の説明の途中や友達の発言中も喋る					

## 3. 衝動性

不適応状態	不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1) 話しを最後まで聞けない	・話が終わらないうちに、思いついたことを答えてしまう。 ・待てずに自分の聞きたいことをすぐに聞く					
(2) 順番を待てない	・列に並んで待てない。いつも一番になりたがり、反則をしてでも勝とうとする ・ルールを守れず、周りとのトラブルが多い					
(3) 協調性が乏しい	・他人を阻止する、邪魔をする ・自分の好きな遊びしかしない ・思い通りにならないと癇癪を起す、拗ねる。					

チェック後の見方	活用方法
○表中の「ほぼ毎日」「一日数回」の部分にチェックがついた項目は要注意項目であり、適切な支援を進める必要がある。 ○「不注意」「多動性・衝動性」のそれぞれの「ほぼ毎日」「一日数回」の部分に6つ以上チェックがつく場合は、ADHDの不適応状態に近いと判断して、支援方法を見直すとともに、一度専門機関に相談することが望ましい。 ○特別な支援や服薬開始後のチェックが、悪化(ポイントが右側に移行)した場合は、支援を改善、医師への相談が必要である。	○不適応状態は、DSM-IVの診断基準と同じ内容にしているため、専門医への受診相談機関に訪れる際にチェックして持参すると、その状態が短時間で伝達できる。 ○支援方法の効果を確かめるために、1ヶ月に一度程度の定期的なチェックを行う。特に、特別な支援や服薬を開始したときは、1週間に1度程度のチェックもその変更の記録と分析につながる。 ○「集団の中と個別の指導での状態の比較」や「各教科ごとの状態の比較」等を行い、不適応が起こる原因分析やより効果的な支援方法を探ることに活用する。

## 注意欠如多動症（ADHD）の子どもの特性及び具体例

### ① 注意性

- \* 注意を払えない。注視できない
- \* 話す人を見て話を聞けない
- \* 同じことを失敗してよく注意される
- \* ものごとに集中できず気が散りやすい
- \* いったん始めたことを最後までやりきれない。すぐに飽きてしまう
- \* 指示を理解して従うことができない
- \* 片付けができない
- \* 置いたところを忘れ捜し物を見つけられない
- \* よく忘れ物をする など

### ② 多動性

- \* じっとしておることができない
- \* いつも身体をうごかして落ち着きがない
- \* 部屋からふらふら出て行く。静かに座っておれない。
- \* 異常にはしゃいだり興奮したりする
- \* 平気で高いところに昇ったり飛び降りたりする
- \* 話を最後まで聞けずに途中で答える
- \* 反則をしてでも勝とうとする
- \* 一番になりたがる。譲り合いながら遊べない
- \* 人の遊びを邪魔する

## 注意欠如多動症（ADHD）の子どもの特性及び具体例

### ③ 衝動性

- \* 突然飛び出したり物を投げたりする
- \* 急に蹴ったり叩いたりする
- \* 気に入らないと暴力を振るったり噛みついたりする
- \* 我慢ができない
- \* 順番が待てない
- \* すぐに癇癪を起こす
- \* 危険なことを平気でする
- \* 急にしゃべり出す
- \* 食べ物のを待てずに食べてしまう など

### ④ 友達関係

- \* すぐにぶつかったり、喧嘩をしたりする
- \* 他人の邪魔をする
- \* 他人に命令ばかりする
- \* 集団の遊びに参加しない
- \* 自分が悪くても謝れない
- \* 人と反対のことをしたがる

## ADHDの子どもへのかかわり方のポイント①

慌てない・焦らない

常に一呼吸おき、おおらかな心で子どもに向き合う。

視覚に訴える

絵カードや写真などを利用して視覚に訴えながら伝える。

見通しがもてるように

予定を急に変更されると切り替えがきかないので、その日のスケジュールなどを絵カードなどで視覚的に示して見通しがもてるように伝え方を工夫する。

思い出し、気づかせること  
ばかけ

ゲームの前に「お友だちにボールを取られたらどうする？」と問いかけてルールに気づかせるなど、事前に想定される混乱をなるべくなくすような工夫をする。

漠然とした表現は避ける

曖昧な表現では理解が困難である。「部屋を片づけて」ではなく、「本を棚にしまって」などと具体的なことばで伝え、できたらその場ですぐに褒める。

刺激を少なく

気が散りやすいので、保育室に仕切りのあるスペースを作り、いろいろなものが目に入らないように環境を工夫する。保育室内の飾りも過剰にならないようにする。

## ADHDの子どもへのかかわり方のポイント②

できることから  
スモールステップで

興味関心のあることできることから始める。できることをより良くできるように課題を小分けにするとやる気が出る。

成功体験を増やす

何かができたり、好ましい行動をしたときは、その場ですぐに褒める。「できた」という体験の積み重ねで、自信がつく。

くどくどと叱責しない

叱責により信頼関係が崩れ、本人は自信を失ってしまうこともあるので、叱った後にはよくなったことを必ず認めて褒めるようにする。また、叱る時は短く具体的に伝える。

褒めるときはみんな  
の前で、叱るときは  
個人的に

一人一人の子どもに対して周囲の子どもにマイナスイメージがつくことを防ぎ、子どもの自己評価を下げずにすむ。

# 子どもの立場を重視した支援の原則

SPELLへの取り組み(イギリス自閉症協会)

- ①Structure (構造化)・わかりやすく
- ②Positive(肯定的)・あるがままに
- ③Empathy(共感)・ともに生きる
- ④ Low arousal(興奮させない)・安らかに
- ⑤Links(連携)・ともどもに

# 特別な支援が必要な子どもへの対応

～支援に大切な 3 S + 1 S～

- ・ スタート . . . ○から◎への支援
- ・ ステップ . . . できるだけ細かく  
スモールステップで
- ・ スピード . . . ゆっくり子どものペースで
- ・ スマイル . . . やる気の源

